

☐ ソフト事業のみ
 ☒ ハード事業を含む

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和6年度

市町村名	伊奈町				
提案事業名	「みんなの広場」整備によるバラのまち推進事業				
事業期間	令和3年度 ～ 令和4年度				
成果指標	(成果を検証する指標) イベント来場者数				
	(成果検証の具体的な方法) 過去3年間のバラまつり、伊奈まつり、秋バラまつりのイベント来場者数と、イベント広場整備後の同イベントの来場者数を比較する。				
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	B
	従前値 (令和3年度現在)	105,667人	目標値 (令和5年度時点)	126,800人	実績値 (令和6年3月時点)
	122,000人				
	(施設建設等の場合の実績)				
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項					

【事業効果の整理・原因分析】

令和3・4年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 記念公園整備事業 (R3)	△	町制施行記念公園にバラ園と一体的に利用できるイベント広場を整備するため、設計を実施。施設を活用して既存イベントを充実させ、来場者の増を図ったが、整備後の令和5年度はイベントの本格再開の初年度となったため、来園者の人数は目標値には届かなかった。
② 記念公園整備事業 (R4)	△	町制施行記念公園にバラ園と一体的に利用できる屋根付きステージを備えたイベント広場を整備。施設を活用して既存イベントを充実させ、来場者の増を図ったが、整備後の令和5年度はイベントの本格再開の初年度となったため、来園者の人数は目標値には届かなかった。
③	○ △ ×	
④	○ △ ×	
⑤	○ △ ×	
⑥	○ △ ×	

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	イベント広場の整備を行い、既存イベントの充実を図ったことで、コロナ前の水準（従前値）を大きく超える来場実績（115%）とはなった。
実施事業について 成果が不十分である点	イベント広場を整備したバラ園でのイベントを実施することで来園者は増加したが、コロナ禍によるイベントの中止・縮小が明け、本格再開は令和5年度からとなり、目標達成のための期間が十分でなかったため、目標値に達するまでにはいなかった。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	イベント広場を活用したイベントを行い、HPやSNS等を活用し、積極的なPRを実施することで、来園者の増を図る。